

### 1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2191000013		
法人名	医療法人社団 福寿会		
事業所名	コスモス苑「ゆうゆう」		
所在地	岐阜県郡上市白鳥町白鳥番地		
自己評価作成日	平成27年8月28日	評価結果市町村受理日	平成27年10月29日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaigokensaku.jp/21/index.php?action=kouhyou_detail_2015_021_kani=true&amp;JigyosyoCd=2191000013-00&amp;PrefCd=21&amp;VersionCd=021">http://www.kaigokensaku.jp/21/index.php?action=kouhyou_detail_2015_021_kani=true&amp;JigyosyoCd=2191000013-00&amp;PrefCd=21&amp;VersionCd=021</a>
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 ぎふ福祉サービス利用者センター びーすけっと
所在地	岐阜県各務原市三井北町3丁目7番地 尾関ビル
訪問調査日	平成27年9月16日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

自然に囲まれた静かな環境の中で、地域社会との交流を深めながら、その一員としての意識を知ってもらい、日々の生活の中で、生き甲斐をもって生活していただけるような心細やかな支援を目指している。  
医療法人社団福寿会として、小規模多機能型居宅介護の他に、グループホーム、特定施設入居者生活介護、短期入所生活介護、居宅介護支援のサービスを行っており、それらの施設と連携をとりながら、利用者の家族の希望に沿った、個々の利用者に適したより細やかな総合的なサービスの提供を行っている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所は、法人の医院を核にして、同法人が運営する複数の福祉事業所が立ち並ぶ中の中心部にある。地域からは、高齢者支援の先駆的な存在として、信頼と認知を得ている。法人の機能を活かし、医療、看護、介護が連携し、安心な地域生活が継続できるように取り組んでいる。利用者には、きめ細かなサービスと、ゆとりのある生活環境を提供し、心身の活力や機能の改善に成果をあげている。管理者、職員は、向上心が旺盛で、働く意欲と誇りを持ち、互いに学び合いながら、利用者、家族との信頼関係を築いている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当する項目に○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き生きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価票

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	利用者様が笑顔で過ごせるよう、今までの生活、人との繋がりを大切に、事故のないよう職員同士で声を掛け合い、理念を常に心において、日常の業務を行っている。	利用者が、地域や馴染みの人と関わりながら、その人らしく、笑顔のある生活ができるように、明快な文言の理念を掲げている。職員は、地域密着型サービスの意義を共有し、日々、経過を振り返りながら、実践につなげている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域主催の盆踊り、祭りや園児、学生のイベントも苑庭でしている。園児は、利用者様にかわいいプレゼントを持参してくれたりと交流をしている。又、近くの神社、お寺に散歩に行くと、気軽に挨拶を交わしたり、たまに、施設に犬を連れて遊びにきてくださる。	法人は、福祉事業を複数運営し、地域福祉の拠点として認知を得ている。代表者は自治会員であり、職員にも地元採用が多い。また、祭りの運営に関わったり、ボランティアや園児、小・中学生との交流を継続し、住民も気楽に訪れている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	事業所として、認知症に対する理解や啓発活動、家族支援などをテーマにした勉強会やイベント等の開催を計画したい。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	市町村主催のケアマネ会には積極的に参加し、情報を交換し合い、協力関係を築いている。また、介護相談員が来苑され、利用者様の事で気づかないことをアドバイスしてもらっている。	会議は、介護保険法改正後、4か月毎の開催が定着している。運営の実情を報告し、出席者の意見や家族からの相談内容について、話し合っている。冬季の外出や医療支援、人材確保、避難訓練などで意見を交わし、事業運営に反映させている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	毎月、市の介護相談員が来苑し、利用者、職員とのつながりを深めている。職員の気づかないケアアドバイスを受け、協力関係を築いている。	市主催の地域包括ネットワーク研究会に参加している。小規模多機能の外部評価や介護保険制度の改正、助成金申請などを相談し、助言を得ている。担当者とは、日頃から連絡を取り、協力関係を築いている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	苑では、身体拘束をしないケアを心がけている。又、職員は研修等受けており、必要時には家族に説明して同意を得ている。時には、事故防止のため、やむなく施錠する場合もあるが、必要ないときはすぐ開錠している。	身体拘束は、行っていない。職員は、研修で拘束の弊害を学び、常に利用者の人権を尊重し、穏やかな態度で接している。言葉による抑制についても、日々、職員間で話し合い、ケアの場で、その都度、見直しをしている。玄関は夜間のみ施錠している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	利用者様の体の状態の観察、利用者様同士の言動、行動に注意し、また、職員の何気ない行動、言動でも虐待につながらないように、お互いにきづかいながら、防止に努めている。		

岐阜県 小規模多機能居宅介護介護 コスモス苑ゆうゆう

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるように支援している	権利擁護に関する制度について、具体的にそれが活用できるような支援は行っていないが、研修等に参加するなど、権利擁護に関する制度について学ぶ機会を作りたい。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	事前にまたは、契約凍結時には不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を得て契約している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者様や家族様と情報交換をしあい、計画表に反映させている。面会、送迎時等に意見を聞くようにして、ご家族や利用者様の意見要望が運営に反映するようにしている。	家族の面会時や送迎時、また、連絡帳でも意見や要望を確認している。利用日の変更以外は、特段の意見は無く、好意的な感想に留まっている。意見や要望には、速やかに対処できる体制がある。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ケア会議、朝のミーティング等が出た意見要望を聞き、話し合い、運営に反映させるようにしている。自分たちで解決ができない事は、上司に提案し、運営に反映している。	管理者は、会議やミーティングで、意見や提案を受けている。ケアの気づきや利用者の行動を見逃さない工夫、安全な送迎、勤務調整などを話し合い、運営に反映させている。職員から、スキルアップに向けての学習の機会を増やして欲しいとの要望がある。	職員の、研修会や学習会の計画的な支援により、さらなるスキルアップと、働く意欲の向上に期待をしたい。
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員個々の努力や実績を考慮し、各自が向上心をもって働けるよう配慮はしているが、さらなる処遇改善に努めたい。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	管理者及び職員は、その段階に応じ、計画に基づいて、定期的に研修を受けている。また、資格取得に対する経済的支援も行っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	定期的に、事業所連絡会や社会福祉協議会等が開催する勉強会に参加している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	利用者開始の段階で、本人や家族との話し合いを持ち、現在の状況やこれまでの生活歴等の情報を出来る限り集め、サービス計画の基本を作成している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族とも出来る限り面談し、話を聞く機会を設けて、不安を取り除き、安心して入所していただけるよう努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談を受けたとき、まずどのようなサービスが適切なのか十分に話し合い、系列施設のサービス利用も含め、その状況に合った対応をしている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員は、一方的に介護する人になるのではなく、利用者からみて信頼(安心)出来る人となり、本人と一緒に仕事をお行い共に生活している実感を持っていただくよう努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	職員が利用者と家族のような意識をもって接し、一緒に過ごしながらお互いに支えあう関係を築くことができるよう努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	地域の方、友人、家族の方々に訪問していただきこれまでの人間関係が途切れないよう支援している。また、以前利用していただいた方が遊びに来ていただいたり、以前利用していた場所にもあそびに行き昔の話をしたりと自分のルーツを大切にしている。	近所の知人が、犬を連れて訪れ、利用者に癒しの効果がある。地元の伝統芸能や祭りに接したり、馴染みの神社や寺へも出かけている。希望者は、家族の協力で、敬老会に出席している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士が助け合うような場面が日常的に見られ、むしろ私たち職員の方が学ぶべきことが多いと感じる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所された方とも定期的に病院や他施設を訪れ関係性を継続している。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	個々の話を聞いて、本人本位のプランをたてる。利用者様の要望を受け止め、希望や意向に沿うよう心がけている。職員にとって職場でも利用者様にとっては家なので、思いや希望を大切にしていきたい。	利用者との会話の中や行動を観察し、思いを把握するよう努めている。家族からも、生活習慣や嗜好の情報を得ている。ビールが飲みたい、甘いものが食べたい、娘に会いたいなど、個々の思いに寄り添い、幸福感が満たせるように支えている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	家族等からの情報だけでなく、日々の会話の中から利用者のこれまでの生活環境等を聞き出し、把握するよう努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人ひとりの日常の生活の環境を毎日の職員のミーティング等で話し合い、細かに把握できるよう努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	現状に即したケアプランをたてるよう、情報収集に心がけている。 本人、家族に相談しながらミーティング、ケア会議等で話し合いをして介護計画に反映している。	ケアマネジャーを中心に、家族や関係者と面談し、本人の状態や家族の意向を確認している。職員会議でも、意見や気づき、ニーズを検証し、介護計画に反映させている。さらに、モニタリングを繰り返し、利用者が安心して、これまでの地域生活が継続できるように作成をしている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護日誌や個人ケースに記録し、利用者の様子やちょっとした変化などを見逃さないよう、毎日のミーティングで情報を共有し日々の実践や計画の見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	体調の悪いときは泊まっていたり、夕食を食べてから帰っていただくなど、出来る限り、出来る限り柔軟な対応をするよう努めている。		

岐阜県 小規模多機能居宅介護介護 コスモス苑ゆうゆう

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	民生委員、警察、消防、教育機関等と協力しながら支援してもらっている。また、ボランティアには、頻繁に協力してもらっている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ケア会議等で職員の意見や提案を聞く機会がありその意見を運営に反映させ、話し合っている。	かかりつけ医は、個々に継続をしている。希望者は協力医に変えている。協力医は隣接し、随時の往診と24時間の連絡体制がある。歯科、眼科などは、個別に支援し、急変時は、地域の総合病院と連携して適切に対応をしている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	介護職員や系列の医院の看護師が、本人や職員の相談にのりながら、適切な受診を受けられるよう、日常的な健康管理等の支援を行っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院時にはサマリーなど、連携医療機関との情報交換等に努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	終末期の説明と同意をしてもい、家族の方の希望に沿って、終末期ケアに取り組み、状態、病状等報告しながらチームで支援に取り組んでいる。	利用開始時に、重度化や終末期の方針を、本人や家族に説明している。状態に応じて話し合いを重ね、他の施設へ移動、または、終末期まで事業所で過ごすかを家族が選択している。終末期は、関係者がチームで支え、万全の体制を整えており、実績もある。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	職員が個人で心肺蘇生訓練やAEDの講習などに参加しているが、今後は全職員が講習を受けるよう指導する。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防署、自治会の方に協力をしていただき、訓練をしている。 責任者会等で話し合い、これを皆で共有し安全に非難できるようにする。また、各棟で利用者様と非難訓練もしている。	災害訓練は、消防署立会いで実施している。避難、消火、通報等、夜間も想定している。法人グループの組織体制と連絡網を整えている。自治会や近隣との協力体制があり、備蓄は最小限確保している。地域の防災訓練にも毎回参加をしている。	地震や水害を想定した、マニュアルの整備と職員の対応力の向上に期待したい。また、職員全員に、AED(自動対外式徐細動器)操作の定期訓練が望ましい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	常に尊厳の気持ちを忘れずに、丁寧に温かく笑顔で接している。利用者様の性格や今まで歩んでこられた人生を大切に、人生の先輩として誇りやプライバシーを損ねないように対応に心がけている。	その人にとって、必要なことを見極めたり、不快がないように、常に思いやり、利用者の自尊心を傷つけない言葉かけと対応をしている。話すときは目線を合わせ、耳を傾け、利用者に寄り添うケアに努めているが、慣れ合いにはならないよう徹底している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	なるべく本人が自己決定が出来るように、希望や思いを把握し、一人ひとりの性格に合わせた対応を心がけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	出来る限り一人ひとりのペースを大切に、本人が拒否したり不快に思われたりする場合は、無理強いせず、希望にそった支援に心がけている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	理容・美容院等本人の希望の店があれば利用してもらおうよう支援し、その人らしい身だしなみやおしゃれが出来るよう心がけている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	テーブル拭き、食器の片付け、お茶の葉の袋詰等できる方に協力していただき、生活意欲を養っていただく。その日の検査者が一緒に食事を楽しむよう心がけている。	朝食時は、テレビのニュース番組、昼食時は音楽を流している。各テーブルには、季節の花や小さな鉢植えを置いている。食材は、旬の野菜を使い、利用者の好みにも配慮し、それぞれの嚥下機能に応じて、食事形態を工夫し、美味しさ楽しさを味わえるよう支援している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事チェック表の記入をして、管理栄養士と連携をとりながら一人ひとりにあった食事量、水分をバランスよくとっていただくよう支援している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口の中の汚れが生じないよう、入れ歯の洗浄やうがい、歯磨きなどの口腔ケアを声かけや見守りながら、ケアしている。		



岐阜県 小規模多機能居宅介護介護 コスモス苑ゆうゆう

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	プライバシーを尊重し、一人ひとりにあった声かけ、支援を心がけている。本人の体力にあわせオムツ使用からトイレに移行するよう声かけをしている。排泄の失敗時は、快く交換する。スタッフの情報をケアプランに反映させる。	落ち着いた生活環境を整え、個々の排泄リズムを把握して介助の工夫をし、自立につなげている。失敗しても、さり気なく対応し、誇りを傷つけないよう配慮している。夜間は、希望者がポータブルトイレを使用しており、おむつの使用が減り、自立の改善に繋がっている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	医師や栄養士と相談しながら、献立を工夫したり、適度な運動を勧めるなど、一人ひとりに合わせた便秘対策を行っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	当日の体調などにより、入浴者の変更をしたり、利用者様の意思を確認し支援する。入浴は主に午前中だが、必要時には午後も行う。個々に沿った支援は難しいが一人ひとりにあった入浴支援をし、気持ちよく入浴していただく。	入浴は、午前と午後に設定し、時間は、希望に応じている。拒む人には、無理をせず、タイミングや気分を変えて入浴を促している。利用者の状態に合わせて、個別に対応し、心地よい入浴を支援している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人ひとりの生活、睡眠パターンを把握し、休息、睡眠、起床の支援を行っている。日中のメリハリある生活や適度な運動をしてもらうことによって夜間の安眠を確保するよう支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	職員は意思からの説明を受け、目的、副作用について把握し支援している。症状の変化を記録し確認に努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人ひとりが張り合いや喜びのある生活が送れるように、その人の趣味や特技などを活かした活動が出来るよう支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	充分とは言えないが、支援できている。家族とのかかわりをもって、協力しながら支援するよう努めている。	事業所周辺の散歩や向かいの喫茶店、近くの神社参拝に出かけている。ベランダや庭での外気浴は日常である。家族に協力を呼びかけ、近郊の百合園や紅葉狩りなどにも出かけている。	



岐阜県 小規模多機能居宅介護介護 コスモス苑ゆうゆう

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭管理の可能の方には、個人で管理してもらいよう、一人ひとりの希望や能力に合わせて支援するよう努めている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	出来る限り本人の希望どおり、電話したり手紙を出したり出来るよう支援している。携帯を持っている利用者様もおられ、自由に電話をかけている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関、洗面台、フロアーに季節感を感じさせる花を飾ったり、壁に四季の情事に粟あせた飾りつけを行い共同空間づくりをしている。日めくりを利用して日時の確認をしていただいたり、トイレ等の場所が分かるように張り紙をしたり使用中には札をかけ安心して使用していただいている。	共有の間は、台所を挟んで、広い食堂と大型ソファを備えた空間に分かれている。気の合う者同士でテレビを見たり、新聞を読んだり、思い思いに過ごせる居心地の良い場となっている。台所からは、両方の利用者の動きを確認でき、気配りすることができる。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	気の合う利用者同士が隣に座れるよう席などに気を配り、思い思いに過ごしていただけるよう工夫している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	写真、人形、ぬいぐるみ等、本人の好みに合わせ居室においていただいている。ベッドの位置等本人の希望に合わせた配置にしている。 泊まりに人の居室は、なるべく同じ居室を使用していただいている。	居室には、ベッド、収納ケース、椅子を備えている。泊まりの時は、使い慣れたものを持参している。連泊者は、寝具や衣装かけ、写真など、馴染みのものを持ち込み、使いやすく配置し、自宅の延長として、落ち着けるよう工夫をしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレ、風呂、廊下等に手摺りが設置されている。居室やトイレが分かりやすいように表示するなど、混乱や失敗を防ぐよう工夫している。		